

ネグロクサアブ

澄川森林でフキの葉に変な虫が止まっているのに気づきました。これまでに見たことがない虫でした。大きさは20mm余り、とりあえずデジカメで撮影。この日は比較的気温が低く、セミの声が全くない状況だったので、この虫もカメラを近づけても動きませんので、上からと横からの映像をゲットいたしました。作業用手袋をしていましたが、得体が知れないので、捕まえる気になれませんでした。撮影日時は2017年6月26日13時53分でした。

帰宅して愛用の図鑑「札幌の昆虫」でカメムシ目、ハエ目、ハチ目とためすがめつ見比べましたが、一致する虫がなかなか見つかりません。大きさからハエ目のネグロクサアブに近いと思いましたので、ネットで画像検索をしたら完全に一致する画像に出会いました。出会ったのは早だったのです。♂はネグロと命名されたように黒味が強い色合いで図鑑には♂が記載されているので、わかりにくかったのです。左下が♂です。形は同じですが、色違いがひどすぎます。虫でも鳥でも雌雄の違いがまるで別種かと思わせられる存在は多々ありますが、この虫もその一つでした。

ネットでいろいろ搜しましたが、生態はよく分かっていません。出現は5~7月、絶滅危惧種のように、分布は日本全国のようなようですが、個体数は少ないようで、自然度の高い場所にしかいないとのこと。澄川森林の自然度が優れていることを証明してくれる虫だったのでありました。クサアブ科として図鑑ではこれ1種のみが掲載されているのです。漢字表記では草虻ではなくて臭虻としてありますので、掴まえると変な臭いを発するのかもしれないのでした。得体の知れない雰囲気でも不気味さを感じたのは自然のことだったようでした。

絶滅危惧種の珍虫が澄川で確認され、記録出来たことは大変喜ばしいことでもあります。住宅地から遠くない場所でありながら、自然度が極めて高いことを知らせてくれた虫として認識しつつ、これからの手入りに励みたいと思ったことでした。

